

セネガル川流域^{かんがい}灌漑地区生産性向上プロジェクト 技術協力プロジェクト(2009年11月～実施中)

セネガルはコメを主食としており、1人当たり年間74kgを消費する、西アフリカでも有数のコメ消費国です。しかし、国内で消費されるコメの大半は海外からの輸入で賄われており、セネガル政府は国家政策の優先事項としてコメの自給率向上に取り組んでいます。

日本は、セネガル国産米の自給率向上を支援するため、最大の穀倉地帯である北部のセネガル川流域サン・レイ州において、「セネガル川流域^{かんがい}灌漑地区生産性向上プロジェクト」を実施し、国産米の生産量拡大と生産者の収益改善を図りました。このプロジェクトにより、稲作技術の向上、農民主体の灌漑設備補修と改善、生産者の財務管理と貸付制度の改善などが行われ、^{もみ}籾の生産が23%増加、収入が95%増加するなど農家の生計向上に大いに役立ちました。また、消費者ニーズに合わせた精米処理技術の導入などによりセネガル国産米の品質向上にも貢献しました。

セネガル政府をはじめ、農家、他国援助機関からもプロジェクトは高い評価を受け、2013年6月のオランダ仏大統領訪日の際、「日仏連携によるセネガル川流域の稲作推進」が合意されています。今後、フランス開発庁(AFD^{*1})が実施するセネガル川地域での灌漑施設整備事業と連携し、プロジェクトの成果のスケールアップを目的とした第二期の協力を行う予定です。この地域で近年増えてきている国内外の民間セクターの参入を受け、第二期では、農家の生産効率向上のために、農業機械サービスの提供などで、民間セクターとの連携も計画しています。

セネガルではこのほかにも、稲作マスタープラン策定(2006年稲作再編調査)、アフリカ稲作振興のための共同体(CARD^{*2})の枠組みによる協力や、農業アドバイザーを通じた稲作の政策策定への支援を行っています。また、セネガルで行われる農業分野の援助国・機関会合では、JICAが共同議長を務めるなど、日本は、政策の企画段階から現場での実施まで総合的にセネガルの稲作開発を支援しています。(2014年8月時点)

*1 AFD: Agence Française de Développement

*2 CARD: Coalition for African Rice Development



セネガル北部ポドール地区において、稲の栽培を指導する君島崇専門家と農業普及員。これら農業普及員が農民たちへの稲作指導を行っていく(写真: JICA)